

## 萩にあしあと残そうよ

「公私ともに徐々に活動再開」

令和2年(2020)

7月1日発行

—第9号—

発行：大塚好一



出歩くたびに色々発見  
まだまだ興味は尽きません

### 「日々の暮らし」

暦どおりに梅雨入りし、湿度の高い日は寝苦しいです。一方、晴れると日差しは強烈で、先日は帽子を被らずに自転車であけてしまい、額の皮がむけてしまいました。

休業が続く、同じような毎日を繰り返す中、野菜作りをしているご近所さんから玉ネギ・キュウリ・インゲン・サニーレタスなどをもらい、おいしくいただきました。畑にいらつしやる時には、時々世間話の相手にもなってくださるし、ありがたい存在です。



「ま・な・び」の記録」参照  
現在も発掘調査が進行中です

### ◆恵美須ヶ鼻造船所跡◆

住まいから一番近い世界遺産の構成資産がここ、恵美須ヶ鼻造船所跡。外国船の来航が多くなった幕末期、幕府の命により萩藩が二隻の木造洋式帆船を建造した場所です。

県内はもとより、県をまたいだ移動もOKになりましたが、なかなか積極的になれないものです。しかし、自分が動かずして「萩にお客様に来てほしい」というのも可笑しい話。屋外を中心に出かけていこうと思います。

### 「あしあとノート」

写真は恵美須神社から撮影しました。この翌日は漁師が中心の恵美須神社祭礼日というので、周辺の釣り船に大漁旗がなびいていました。やはり今年は祭りも簡素化されたそうです。そつと神社に豊漁と安全を祈りました。

### ◆村田清風記念館・旧宅◆



長州も偉大な人物が多い！  
近くの墓所に歩いて行けます

「あの吉田松陰が師と仰いだ」という言葉と、固く結んだ口もとが目を引く肖像。ずつと気になっていた村田清風記念館・旧宅（長門市三隅）を訪ねました。

一口に言えば、幕末の萩藩の財政・軍制・教育の大改革を成し遂げる原動力となった人物となりますが、それでは不足が多すぎます。「村田清風を知らずして明治維新を語るべからず」と思いました。

### ◆防災青年団の活動◆

後小畑防災青年団の団長から声がかかり、船着き場沿いにある広場の草刈りに参加しました。午前中、約三時間の作業でしたが、久しぶりに町内の先輩たちとも会えて、正直なところ嬉しかったです。一方、八月にこの広場で予定されていた町内会の盆踊りは中止が決定しました。

### 「自由気ままな歌日記」

それぞれに  
根を張る土とめぐりあい  
青々伸びる道端の草  
(六月四日・草取り)

真夜中にわが寝るもとに  
這い來たる気配で目覚め  
このゴキブリめ  
↓ゴキブリと蚊が多いのが我が寮の厄介な点。他に三首作る。  
(六月九日・睡眠不足)

東京の先輩が我に気をかけて  
時おり掛かる電話が嬉し  
(六月一日・東京支店長)  
ふみ記す時に眼鏡を外すこと  
習慣となる書を読むときも  
(六月一九日・老眼)

### 「仕事はどうだい？」

六月も休業が続きましたが、ようやく週一日出社となりました。萩の本社で丸々二か月休業したのは私だけでした。事務・配達・製造部門はスケジュールを組んで交代で休み、営業の先輩も週に一度は出社していました。ついつい、取り残されているような不安を感じる日々でした。

そんな中、取り組んだ得意先との顔つなぎ。ふと思いついたのが、「塩原を紹介してね。」と手渡された室井敦彦氏（塩原温泉まちめぐり案内人の写真はがきでした。

郷里塩原で初夏に撮影された滝の写真を使っただけで「ほっとしていただけたら幸いです」と添え、一枚一枚手書きしました。



塩原の名瀑の写真はがきをお届けすることができました

## 「ま・な・び」の記録

世界遺産のある町・萩①  
『恵美須ヶ鼻造船所跡』

### ◆当時の時代背景など

江戸時代は、諸藩の水軍力を制限するため、幕府は大船の建造を禁止していました。しかし、嘉永六年（一八五三）のペリー来航によって、欧米列強に対抗するには大船の建造が必要と認識し、禁止令は撤廃されました。

そして、幕府はもとより、水戸・薩摩・佐賀など有力な諸藩が洋式軍艦の建造に取り組むことになったのです。

萩藩においても軍艦製造の検討がなされました。しかし、当時は相次ぐ風水害などで出費が増加しており、極度の財政難に陥っていたため、初めは消極的な姿勢を取らざるを得ませんでした。

この状況下、藩を動かしたのは木戸孝允（桂小五郎）でした。洋式造船技術を学んだり、造船所を視察したり、人脈を開拓したりして、準備を進めていったのです。

### ◆建造された二隻の軍艦 ◎丙辰丸（へいしんまる） 安政四年（一八五七）完成

ロシア式スクーナー  
長さ 約二四・五m  
↓マストは二本。進行方向  
に対して帆を縦に張るス  
タイル。

伊豆の戸田村（現沼津市）でスクーナー建造経験のある船大工、高崎伝蔵らを招いて建造しました。  
★釘などの鉄は、大板山たたら場から供給されました。

### ◎庚申丸（こうしんまる） 万延元年（一八六〇）完成

オランダ式コットル  
長さ 約四三・六m  
↓マストは三本。進行方向  
に対して帆を横に張り、  
最後尾の帆だけ縦に張る  
スタイル。

オランダ式造船技術を指導できる長崎の船大工駒次郎らを招いて建造しました。  
★船の設計は、長崎の海軍伝習所で学んだ藤井勝之進が担当しました。

### ◆造船所にあった施設など



この広場に作業小屋が建ち  
造船が行われていた

造船所の見取り図が残っているの、作業場などがどのように配置されていたかが分かります。現地を訪れると、それぞれの建物の推定位置が示され、幅や長さで規模を想像することが出来ます。

- ・絵図木屋：原寸大の図面を作成した原図場
  - ・切組木屋：図面から木形を作って木取りした部材を組み立てる場所
  - ・木挽木屋：製材場所
  - ・蒸気製作木屋：船材を入れて蒸す、蒸気箱を設置した建物（蒸し曲げはロシアの造船技術）
  - ・綱類製作木屋：綱類を製作した場所
- その他、鍛冶木屋・高崎伝蔵居所・大工居所などの表示があります。（木屋こや）

### ◆世界遺産登録のポイント

萩藩の洋式船建造の歴史は、二隻目の庚申丸をもって途絶えます。それは、以後主にイギリス商人から蒸気船を輸入するようになったからです。

しかし、恵美須ヶ鼻造船所跡は、以下に示す理由で世界遺産の構成資産に選定されています。国内に同様の史跡がなく、とても貴重な歴史の証人だからなのです。

- ① 日本の造船近代化の最初期の様相を伝えている。
- ② 異なる技術（ロシア式・オランダ式）の造船を同じ場所で行った。



現存するのは石造防波堤のみ  
ここは撮影スポットでもある

本格的な調査が行われたのは平成二一年度（二〇〇九）からということで、遺構が確認されるのはまだまだこれからでしょう。とても期待が膨らむ場所でもあります。

### ◇世界遺産の構成資産を 一緒に学びましょう！

平成二七年（二〇一五）七月に『明治日本の産業革命遺産―製鉄・製鋼、造船、石炭産業―』が、世界文化遺産に登録されました。

この世界遺産は、八県一市に分散する二三件の資産で構成することから、天守閣のような象徴的なものが見られないというものではありません。それは、日本が一九世紀半ばから二〇世紀初頭にかけての五〇年という短期間で、西洋の技術を吸収し、かつ国内の伝統的な技術と融合させ、急速な重工業の産業化に成功した…という過程に価値を見出しているからなのです。

つまり、日本の産業革命ストーリーを、各構成資産を巡りながら読み解いていくことに、この世界遺産の面白みがあると理解していただければと良いのだそうです。

萩市の構成資産は序章部分です。西洋技術を導入する必要性を感じ、試行錯誤を重ねる様子に思いを馳せながら、一緒に学んでいきましょう。